

版画工房アーティーが専門に制作するジクレー版画（デジタル版画）を切り口に、様々なアーティストや画廊にインタビュする本コーナー。
今回は隠丘画廊 HILLSIDE GALLERY の唐聖予さんに、「日本のアートシーン」についてお話を伺ってきました。



七戸優 「Mindful Start」 2015年 技法名：アーカイバル®

隠丘画廊 HILLSIDE GALLERY

×
Artie
FINE ART WORKS

アーティー 唐さんとは、2015年に七戸優先生の版画制作で弊社を訪ねて来て下さったのが最初の出会いでしたね。本日は、アジアを拠点としたアートマーケットでお仕事されている唐さんに、ジクレー版画（デジタル版画）に限らず様々なお話を伺えたらと思っています。

まず、アジアという枠組みから日本のアートをご覧になって、どのように感じられますか？

唐 日本は美術水準が高く、アーティストの質も高いのが特徴だと感じています。純粹にアーティストを目指している方もすごく多い。しかし日本の国内マーケットがそれほど熱くないことで、力のあるアーティストたちが十分に世界で認知されていないし、残念ながら埋もれてしまっていると感じています。

アーティー 確かに日本のアートマーケットの現状は誰もが認める場所ではありますよね。

唐 日本ではバブル崩壊後、アートを購入する勢いが失速してしまいましたよね。次第にアートは美術館で鑑賞するものとなり、購入意欲が減退していったのはとても残念なことです。

でも、その事でアーティストが埋もれてしまっていないし、ましてやアーティストの成長や表現したいという欲求とは関係のないことです。

アーティー そこに唐さんのやりがいが出てくるわけですね。

唐 おっしゃるとおりです。才能のある人

を支援したり文化として育てていくのは、一つの方法ではありません。しかし、作品が売れて、収入を得、キャリアを積んでいくのが、アーティストにとっても健康的な成長の方法の一つではないでしょうか？ 父と私は、長い間アジアを中心としたアートマーケットに関わってきました。その経験を生かしてまずはアジア、そして世界に向けてアーティストの発信をしていきたいと思っています。すごく意義のあることだと感じています。

アーティー なるほど。なぜ唐さんが日本人である七戸優さんを見出し、アジアのマーケットへ積極的に売り込んでいったのか理解できました。

唐 私は日本の文化や芸術に惹かれ、日本に長く住んでいます。中国語圏でも、日本に興味がある人が年々増加しています。

しかし、日本の言語バリアが高い壁となり、興味や関心があっても、その先まで進めない人が多いのが現状です。それに加え、



隠丘画廊 HILLSIDE GALLERY で対談する唐さん(左)とアーティー代表加藤(右)

言葉で表さない独特のコミュニケーションの取り方や、美意識が根付いていますよね。**アーティー** を聞いて十を知る文化ですよ。物事の一端だけを伝えて、あとは相手に理解してもらおう。これは日本人の美意識にもつながっていくのでしようけれど、外国の方には、そこまで理解できないことのほうが多いでしょうね。

唐 より深く日本のアートに触れてほしいとの思いから、昨年末にここ八王子にギャラリーを設けました。幸い私は日本語・中国語・英語が話せますから、アートをきっかけに国境を越えたコミュニケーションが生まれる場所でありたいと願っています。この仕事を始めて、絵を見て買ってもらうことだけがアートの仕事ではないと強く思うようになりました。

アーティー 唐さんのビジネスは、アートを取り扱いつつも、もっと大きな意味での文化交流や相互理解を目指されているんですね。

弊社へは版画制作を目的にいらしていただいたわけですが、「日本での版画制作」というのもやはり意味があつてのことなのですか？

唐 原画が手元にあり、それを版画化する場合、細かなディテールをどれだけ表現することができているのか、そのことが一番重要になってきます。特に美術作品は「小さな差をどれだけ積み上げられるのか」が勝負になってきます。こういったことが出来るようになるには、かなりの時間と文化の蓄積が必要になってくる。その部分に関して、日本の技術力を頼りにしています。

アーティー 実際ジクレー版画をお作りになってみていかがでしたか？

唐 油絵の魅力の一つでもある、光を当ててみて初めて分かるような描写表現は、版



色校正が終了しプリントにサインをする七戸優氏。その日は5絵柄を色校正した。

画では再現できないだろうなと思つていました。でも実際にアーティーさんに伺つて作家と工房さんが色校正を重ねていくうちに、見事に微妙な表現を再現されていく過程を拝見してすごく驚きました。

アーティー それはよかったです。今後版画化される予定の作品もお決まりなのですか？

唐 基本的に版画制作のための絵の選定は、作家が所有して手放す予定のない作品にしています。今回は6点制作しましたが、もう何点かすぐにでも制作したいと思っています。

アーティー それは面白いですね。よりプレミア感がついて版画にする意味が増しますね。今日は日本という枠を飛び越えた、大変有意義なお話をありがとうございました！ 今後ともよろしくお願いたします。

(2018年4月 隠丘画廊 HILLSIDE GALLERYにて談 構成(株)アーティー)

P R O F I L E

版画工房アーティー

美術専門の版画印刷を扱う「版画工房アーティー」。代表の加藤泉は1987年に米ロサンゼルスでシルクスクリン工房を設立。12年間アメリカンアートの制作に携わる。2001年に帰国後、東京に「版画工房アーティー」を設立。アーティー独自のジクレー版画「アーカイバル®」を商標登録。版画を原画と同等に扱い、作家と工房が相互に意見交換することで、互いの想像力の一步先の表現力を目指している。制作している版画の8割以上に、モデリングペーパースト、エアブラシなどの特殊効果を施し、一般的な「版画」の概念を超える、斬新な表現に果敢に挑戦しつづけている。

東京都港区六本木 7-21-22 セイコー六本木ビル 4F
(国立新美術館 正門 徒歩1分)

営業時間：平日 9時～17時30分 定休日：土日祝日

Tel：03-6721-1850 E-mail：info@artie.co.jp Web：https://artie.co.jp

隠丘画廊 HILLSIDE GALLERY

代表の唐聖予は東京大学、コロンビア大学を卒業し、帰国後予約制のギャラリーを2017年11月に設立。ギャラリーはユニークな目線で才能を発掘し、アジアをはじめ国際マーケットにアート作品を紹介する。

【取り扱い作家】

七戸優、佐藤晋也、加藤堆繁

【展覧会スケジュール】

佐藤晋也個展を2018年10月6日より3ヶ月間開催予定

【画廊情報】

住所：八王子市長沼町 104-2 Hillside Terrace 2-5

tel：042-683-0177 mail：info@hillsidegallery.com (要予約)